



～ 鹿児島企業の顔・人・心～

『川上，川下に役立つ木材流通のシステム』

ベネフィット森林資源協同組合

代表理事 森田 俊彦

ベネフィット森林資源協同組合は平成15年に、操業停止状態にあった南大隅4町による第3セクター南大隅国産材加工センターを引き継ぎ、操業を開始いたしました。当組合は、南大隅4町を中心として大隅流域の森林資源を積極的に活用し、木材の流通圧縮と物流・情報の拠点づくりを行うと共に、安定かつ高品質な製材品を地材地建のとおりに地元へ供給するという目的を持って設立以来運営しております。近年木材業を取り巻く状況はきびしい中、反面、環境保護やCO₂削減の機運が高まりつつあるものの、その活路が見出せないままとなっております。このような状況の中、私ども組合は、設立目的でもある地域森林資源の需要拡大と林業経営の活性化、また森林林業の社会的貢献と健全経営をなすべく流通システムを構築いたしました。その概要は木材流通を情報化し、物流と一体化することにより、末端価格の2～3割相当の流通経費を削減したことです。また流通経費の削減により生まれた利潤をより高くで原木を買い取るということで川上（山元）に還元し、川上の収益UPを計ることで、関係業者の事業意欲を高め、山主の山林経営の活性化を促しております。そこで、流通全体の不良在庫を一掃するため、インターネット・携帯電話メールを活用し、まずリアルタイムで市場のニーズをダイレクトに川上に知らせ、今、必要とされるサイズ、数量、または特注材等の情報を川上に的確に伝えます。さらに、また川上から予測的に山の出材状況を市場へ知らせるといった情報の相互性により、出荷材の飽和状態や不足状態を防ぎ、相場変動が無くなり価格が安定するよう運営しております。このシステ

ムには他に、ネット上に仮想在庫を創り、パスワードで進入して業者間の原木、製品の売買を可能にしております。ユーザー側には、地域の材を一同に揃え、選別したものから一貫して生産される安定した品質の製品供給と、出荷者、生産者、加工者、販売者の経緯が読み取れるトレーサビリティの確立を進めております。ソフトによる流通拡充を図る一方ハードの整備にも着手し、現在、県産材の普及を推奨する「かごしま材」認証制度に伴い、当組合も乾燥施設やクン煙熱処理装置他、新規設備の導入を進めております。長年続いた木材産業の転換期に際し、古の精神と新たな技術開発を融合し、ユーザー様に安心で良質、またリーズナブルな製品造りを追求するため、鹿児島県工業技術センターさんのご支援ご指導は、我々のように研究機関を持つことが出来ない中小企業には、非常にありがたく、なくてはならない存在です。今後の業界発展のためにもより一層の研究開発とご講義、ご指導等を邁進していただき、中小企業の未来の指標を示して頂きたいと思っております。今後とも産官学一体になり、日夜 きばっちょいもんさ。



工場内